

豊かな 社会づくり

社会の一員としての役割と責任を認識し、健康で心豊かな社会づくりと地域社会・国際社会の発展に貢献します。

お客さまをはじめとするすべての皆さまが、未来の様々なライフイベントを楽しみ、力強く乗り越えて、豊かで明るい人生を送れるよう応援したいと考えています。住友生命は、そうした想いから、「少子化・子育て」「介護・医療」「芸術・文化」「地域社会・国際社会」、さらに「地球環境」を加えた5つのテーマを重点分野として、積極的な取り組みを進めています。



少子化対策・子育て支援事業

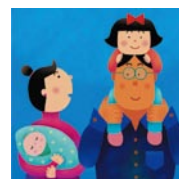
未来を築く子育てプロジェクト

すこやかな子育てと夢のある未来づくりに向けて、平成19年度にスタートした「未来を築く子育てプロジェクト」では、以下の活動を中心とした様々な取組みを通して、「子育てのすばらしさ」を啓発し、子育てしやすい環境づくりを支援しています。

■子育てをテーマにした顕彰制度

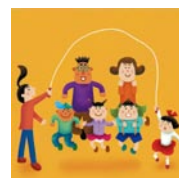
1. エッセイ・コンクール

子育てをテーマにしたエッセイを募集。子育ての創意工夫ある事例などを紹介し、子育てのすばらしさを伝えます。



2. 子育て支援活動の表彰

より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集。特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促します。



■女性研究者への支援

育児のため研究の継続が困難となっている、若しくは育児を行いながら研究を続けている女性研究者に対し、研究助成を実施します。人文・社会分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。



【未来を築く子育てプロジェクト実行委員会】

実行委員長：堀田力氏／公益財団法人さわやか福祉財団理事長、弁護士
実行委員：池田守男氏／株式会社資生堂相談役、大日向雅美氏／恵泉女学園大学大学院教授、奥山千鶴子氏／特定非営利活動法人びーのびーの理事長、金田一秀穂氏／杏林大学外国語学部教授、吉永みち子氏／作家、横山進一／住友生命保険相互会社取締役会長

未来を築く子育てプロジェクトwebサイト

<http://www.sumitomolife.co.jp/child/>

子育て環境の整備

子育て環境を整備し、地域の子育て環境を向上させるため、全国的な子育て支援団体の活動支援を実施し、親子が安心して生活できる環境づくりを支援しています。

【支援先団体】・NPO法人 子育てひろば全国連絡協議会
・特定非営利活動法人 あい・ぽーとステーション

育児をテーマにした講演会の開催・共催

少子化の一般啓発活動として、育児などをテーマとした講演会やシンポジウム等を実施し、「子育ての喜び」を啓発し、「育児不安の解消」を図ります。

「がん」への取組み

ピンクリボン運動を応援

万が一がんににかかった場合の備えをサポートするだけでなく、より多くのお客さまに乳がんの早期発見、早期診断、早期治療の大切さを伝えていくことも、生命保険会社としての重要な社会的責任であると考え、平成19年度よりピンクリボン運動を応援しています。

全国約3万人の営業職員が胸にピンクリボンバッジをつけて、ピンクリボンのメッセージを多くのお客さまに伝えていくとともに、お客さま一人ひとりにオリジナルのチラシや冊子をお配りし、乳がんの啓発に努めています。当社イメージキャラクターのピングーもピンク色になりグッズやチラシに登場、一緒にPR活動をしてきています。

また、使用済み切手を回収し、リサイクル業者を通じて換金の上、日本対がん協会「乳がんをなくすほえみ基金」に全額寄付しています。寄付金はマンモグラフィなどの乳がん検診機器の整備、患者や治療者のケア、広報活動やがん相談、検診技術

者の研修などに役立てられています。

その他、全国で乳がんセミナーを開催し、乳がんの基礎知識をQ&A方式で解説するほか、検診の申し込み方法、検診費用などの情報提供を行っています（平成23年3月末時点で114講演実施）。



切手回収
ボランティアボックス
© 2011 The Pygos Group

ピンクリボン啓発チラシ

がん患者団体等への支援

がんに関する様々な活動を行う団体に対して、支援を実施しております。

公益財団法人 日本対がん協会

- ・がんの早期発見や早期治療、生活習慣の改善によってがんの撲滅を目指そうという趣旨で昭和33年に設立された団体です。
- ・がん征圧を目指した24時間ウォーキングイベント「リレー・フォー・ライフ」を支援します。



NPO法人 がんサポートコミュニティ

- ・患者さんとそのご家族に対し、専門家による心理社会的サポートを提供するために平成13年に設立された団体です。
- ・がんに関する悩みの相談を複数の医師によって行う『セカンド・オピニオン相談』を支援します。



財団法人 骨髄移植推進財団

- ・白血病などの血液の病気で苦しむ人々を、善意のドナー候補者との骨髄移植で救済するため平成3年に設立された団体です。
- ・一人でも多くの患者さんを救うため、ドナーの募集、普及啓発を支援します。



「闘わないがん治療：粒子線セミナー」の開催

すべての方々に向けて「超最先端のがん治療・粒子線治療技術（先進医療）」の啓発活動を行っています。

平成20年3月から、兵庫県立粒子線医療センター名譽院長・がん粒子線治療研究センター長医学博士菱川良夫先生を講師にむかえセミナーを実施しており、これまでに50回開催し11,000名を超えるお客さまにご聴講いただいています。また

講演のダイジェストと菱川先生のインタビューを収録したDVDも10万枚超を配布しています。

（平成23年5月末現在）

「闘わないがん治療」DVD



認知症ケア支援事業

当社は、平成13年度から介護の中でも特に深刻な問題となっている認知症介護の問題に取り組んでいます。

認知症ケアに取り組む団体を支援

認知症ケアに関する啓発・普及活動、家族へのフォロー、指導者育成等の観点から、積極的な活動を行っている団体を支援しています。電話相談、研修、機関紙発行など、各団体のニーズに合わせた当社の支援内容が評価され、厚生労働大臣より感謝状をいただきました（平成14年3月）。

【支援先団体】・公益社団法人 認知症の人と家族の会
・公益社団法人 日本認知症グループホーム協会

認知症サポーターの養成

平成21年から認知症サポーターの養成に取り組んでいます。所定の研修を通じて、これまでに3,737名（平成23年5月末現在）のサポーターを養成し、金融機関ではトップの実績です。

※認知症サポーターとは、「認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者」で、厚生労働省が始めた取り組みです。

セミナーの様子



認知症ケアポータルサイトを開設

認知症に関する情報は少なく、認知症の高齢者がかかえる家族の方々には、ケアの方法や相談窓口がわかりにくい状況にありました。こうした家族の方々の悩みや、認知症への偏見を解消するため、平成13年度に総合Webサイトを開設しました。

認知症に関係する国内サイトに加え、行政や都道府県の窓口を網羅しています。

認知症ケアポータルサイト
<http://www.ninchishou.com/>

スミセイ・ヒューマニー活動

「人間味あふれ(ヒューマン)、地域社会と調和を図れる(ハーモニー)企業でありたい。」

そんな想いから「ヒューマニー(ヒューマン&ハーモニー)」を合言葉に平成4年にスタートした職員参加型のボランティア活動です。

地域社会に貢献するために、海岸清掃や施設訪問・チャリティバザーなど多岐にわたる活動を展開しています。

毎年多くの支社・本社各部・室が参加しており、平成22年度は、243活動、のべ32,027名の職員が参加しました。



海岸清掃



高齢者施設ボランティア

24時間テレビ“愛は地球を救う”協賛

平成18年度より社会貢献の一環として日本テレビ系列24時間テレビ“愛は地球を救う”に協賛し、全国で募金活動を実施しております。

当社独自の取組みとして使用済み切手の回収用ボックスを作成し、当社内のみならず各企業さまのご協力もいただき、回収活動を実施し、リサイクル業者を通じて換金の上、24時間テレビチャリティー委員会に寄付しております。また24時間テレビ放送日当日にはテレビ局のメイン会場や街頭にブースを設置し、全国各支社・本社および関連会社職員が募金活動を行い、昨年は皆さまのご

協力のもと11,988,685円(うち使用済み切手回収による換金額827,680円)の募金を集めることができました。

皆さまからお預かりした募金は、福祉・環境・災害援助に役立てられます。



平成22年 横浜ワールドポーターズ会場

ユニバーサルデザインカレンダー寄贈

様々な立場の方にお使いいただけるよう、平成14年用には「点字カレンダー」を、平成15年用以降は黒地に白文字の「ユニバーサルデザインカレンダー」を製作し、一部を全国の弱視者支援団体、盲導犬協会等へ寄贈しております。平成23年用も、1,930部を69団体へ寄贈しました。

ユニバーサルデザインとは「年齢や性別、体格、障がいなどの有無に関係なく、誰にとっても使いやすいよう配慮された機能やデザ

イン」を意味します。カレンダーの文字には、日本のユニバーサルデザインの第一人者であるトライボッド・デザイン株式会社(中川聡代表)作成の「ユニバーサルデザイン・フォント」を使用し、視力の弱い方にも読みやすく作られています。



こども絵画コンクール

未来を担うこどもたちの夢を育み、心豊かな成長をお手伝いしたいという願いのもと昭和52年にスタートした「こども絵画コンクール」は今年で35回目を迎えました。全国各地および海外からご参加いただき、開始からの応募総数が977万点を超えるコンクールへと成長しました。

平成12年度からはフランス国立ルーヴル美術館の後援を受け、毎年同美術館にて優秀作品の展覧会を開催してまいりました。今年度も優秀作品を3~4月の1ヶ月間ルーヴル美術館に展示します。

その他、昭和61年度より絵画コンクールを通じて日本ユニセフ協会の活動を応援しており、「配付した画用紙1枚につき1円、応募作品1点につき10円」を寄付し、絵画コンクールに応募いただくことでこどもたちが社会貢献に参加できるようになっています。



第34回ルーヴル美術館賞
「世界一大きいジンベイザメ」
木村 学くん(小1)

クラシック音楽文化への貢献

いずみホール

いずみホールは平成2年にクラシック音楽専用ホールとして、大阪城を間近に望むロケーションにオープンしました。室内楽に最適な821席の規模で、その音響の良さは各方面から高く評価されています。平成13年からは財団法人住友生命社会福祉事業団として音楽文化振興事業を担っています。

平成22年度は、主催公演・共催公演49を含む総公演数が230、入場者総数は132,509人となりました。4月には、開館20周年記念ガラコンサートを開催したほか、祝祭オペラであるロッシーニ「ランスへの旅」を上演し好評を博しました。年間企画としては、生誕200年を迎えたシューマンをシリーズで取り上げ、声楽、ピアノ曲、交響曲と各ジャンルの作品を網羅したプログラムを提供しました。このほか、いずみシンフォニエッタ大阪による「新・音楽の未来への旅シ

リーズ」、「ランチャタイム・コンサート」、「バッハ・オルガン作品連続演奏会」、「日本のうた」などのラインアップで、多様なクラシック音楽ファンのニーズに応えました。

従来からの中学生以下の子どもの対象にした数多くの普及企画に加え、若年層のクラシック音楽ファンの育成・獲得に向けて、主催公演の一定席数を若者に無料提供するユースシートを創設し、他に類を見ない画期的な試みと大きな反響がありました。



開館20周年ガラコンサート

全国縦断チャリティコンサート

全国各地にクラシック音楽をお届けしようと昭和61年にスタートした「全国縦断チャリティコンサート」は、今年度で26回目を迎えました。毎年国内外の一流アーティストによる演奏を全国のお客さまにお届けし、通算公演回数は921回を数え、これまでに115万名以上の方々にご来場いただきました。今年度は「未来に伝えたい名曲たち」をテーマに全国で公演を順次開催しています。会場でご協力いただいているチャリティ募金も累計2億6千万円を超え、各地の福祉事業などに寄贈し、様々なかたちでお役立ていただいております。また、平成20年度から国際NGOプラン・ジャパンを通じて募金の一部で、校舎の老朽化や教室不足等で十分な教育を受けられない

タイやベトナムのこどもたちへ学校校舎を寄贈しており、5校舎を建設しました。今年度もタイとベトナムに校舎を建設予定です。

さらに今年度は、東日本大震災の被災地への義援金としても募金をお役立てさせていただきます。



財団法人 住友生命社会福祉事業団

住友生命社会福祉事業団は、昭和35年設立の財団法人で、平成22年度に創立50周年を迎えました。社会の福祉および文化の振興に貢献すべく多岐にわたる事業を展開しています。平成22年度の主な取組みは次のとおりです。

予防医学 振興事業	生活習慣病予防健診 (住友生命総合健診システム)	生活習慣病の早期発見を目指す総合健診の年間受診者数は24,783名、特定健診・特定保健指導の対象者は7,343名を数えました。また、聴力障がい者の無料健康診断、介護する人への受診優遇を実施しました。
	海外医学研究助成	生活習慣病等の先端医療分野の研究のため、海外留学する医師18名に助成しました。
	地域医療貢献奨励賞	僻地等での医療に永年尽くす医師6名を顕彰しました。
福祉事業	介護セミナーの開催	「スマセイさわやか介護セミナー」を全国37都市で開催し、延べ1万名の方に受講いただきました。また、「ケアする人のケアセミナー」、「遠距離介護セミナー」も開催しました。
	子どもの健全育成	児童館を拠点にした「子どものためのNPOとの協働事業」、近畿圏の小学生を対象に「子どもエコ俳句大賞」(第5回)を実施しました。
	いずみホール夢コンサート	障がいを持つ人とサポーターを招待するコンサートを開催しました(第8回)。
音楽文化 振興事業	「いずみホール」では、クラシック音楽文化の振興を目指し、開館20周年記念公演をはじめとする多彩な主催公演を実施しました。	
災害救済事業	東日本大震災に際し、財団事業と関わりの深い4団体へ合計527万円の支援を実施しました。	



地域医療貢献奨励賞表彰式

公益財団法人 住友生命健康財団

人の生涯にわたる心身の健康に関する啓発活動を行い、国民の健康増進を図ることを目的として、昭和60年に設立した財団法人です。(平成23年4月1日より公益財団法人に移行しました。)

●主な事業内容(平成22年度末現在)

スマセイライフフォーラム「生きる」 (平成8年～)	「生きる」をテーマにしたフォーラムをのべ78都市で開催
シニアライフセミナー (平成16年～)	地域に密着した高齢者向けのセミナー累計35回開催(内、認知症の理解と予防をテーマにした認知症セミナーを27回開催)
子育てフォーラム (平成19年～)	子育ての喜び、家族の絆をテーマとしたフォーラムを13回開催
スマセイおはなし広場・キャラバン (平成13年～)	保育園・幼稚園児に絵本の読み聞かせなど、のべ44県1,199ヶ所で開催 絵本23巻を発行・頒布
スマセイおはなし広場・オンステージ (平成13年～)	大ホールに親子を招いて、プロによるおはなしの読み聞かせイベントをのべ24都市で開催
さわやか・スマセイ元気交流事業 (平成22年～)	地域の支えあいネットワーク育成 全国21ヶ所通算167回開催 地域の支えあい活動支援 全国12ヶ所通算14回開催
もりフォーラム(平成18年～)	認知症啓発の野外セミナーを毎年1回のべ5回開催
コミュニティスポーツ助成 (平成22年～)	コミュニティスポーツによる健やかなひと・社会づくりに向けた調査・研究への助成 平成22年度は7件の調査・研究プロジェクトに助成実施 平成23年度からは実践活動も助成対象とし公募



スマセイ ライフフォーラム「生きる」

社会貢献事業を助成する「住友財団」

「住友財団」は、住友の諸事業の礎である別子銅山開坑300年記念事業の一環として、平成3年9月に住友グループ20社で設立した多目的の助成財団で、当社もグループの1社として設立メンバーとなっています。

今年は設立20年目を迎え、資産総額(正味財産)は217億円となっております。

平成22年度は、環境問題の解決・改善のための様々な視点(人文・社会・自然科学分野)からの研究に助成する「環境問題の解決・改善のための様々な視点(人文・社会・自然科学分野)からの研究に助成する」「環境問題の解決・改善のための様々な視点(人文・社会・自然科学分野)からの研究に助成する」「環境問題の解決・改善のための様々な視点(人文・社会・自然科学分野)からの研究に助成する」(基礎科学研究助成)、国内・海外の芸術的価値の高い美術工芸品の修復を助成する「文化財維持・修復事業助成」、アジア諸国における日本関連研究助成などの助成プログラムにより、合計20の国と地域へ287件(総額439百万円)の助成を行いました。

写真は、今年度の助成で修復が決定した宇治市(宗)萬福寺 所蔵
木造韋駄天立像

